

## 準備は専門家の気づきから

宮岸 哲也 (株式会社 山武)

2004年7月2日から7月12日にFenn先生が来日され、日本各地で講演をされました。その11日間の最初にウェルカムパーティが、そして最後にフェアウェルパーティが、成蹊大学で開かれました。堅苦しい集まりでなく身内のパーティにしようとの考えから、皆で歌を歌ったり生演奏があった方がよいとの機運が盛り上がり、幹事であったペンタックスの小川哲朗さんと私が準備することになりました。幸いにも、私の知人が引き受けてもらえることになりメール等で打ち合わせに入ります。曲目は、Fenn先生の良くご存知の英語ソング中心と、すぐまとまりました。しかし、私が予想していなかったPA\*の準備が必要があると強く告げられます。その重要性をまったく認識していなかった私のラジカセのマイクなら準備できますなどとの的外れな回答に対して、ミュージシャンは会場の大さや聴衆の数を聞きだします。音響の専門家としての

考慮の末、ウェルカムパーティの会場が比較的狭くて天井が低く参加者が20人程度にすぎないこと、一方フェアウェルパーティは会場も広く人数も多いことから、前者はギター弾き語りでも可能であり機材は不要、後者はエレクトリックピアノとキーボードアンプが必要と判断され準備することになりました。その機材を大学内で借りられないか調べましたが困難でありレンタルすることになって小川さんが、ピアノなど60kg以上の機材をレンタル店から自家用車で運んでくれました。結果として、両パーティとも参加者全員にすばらしい演奏が届き、Fenn先生を含めて皆が満足するものだったのでした。

\* ステージの楽器や声を拾い、調整し、会場に届ける装置

